

題目 意思決定時間および社会的価値志向性が協力行動に与える影響

氏名 石田晏梨

指導教員 高橋伸幸

人の協力行動は直感的であるのか、それとも熟慮を必要とするのだろうか？このことを検討するために、先行研究では二つの異なる方法が用いられてきた。一つ目は、自分のペースで行う意思決定時間と協力との相関であり、速い意思決定を行った参加者は、遅い意思決定を行った参加者よりも協力率が高いこと (Rand et al., 2012) や、意思決定時間が短いと極端に協力/非協力をすること (Evans et al., 2015) が示された。二つ目は、タイムプレッシャー (TP) などの意思決定時間の実験的操作と協力との関係であり、TP が協力に正の効果を示す研究も (Rand et al., 2014)、負の効果を示す研究もある (Capraro, 2016)。意思決定時間と協力の関係は社会的ヒューリスティクス仮説 (SHH) によって説明される。SHH によると、人は二重過程における直感的プロセスでは、日常的な相互作用で有利に働く協力的戦略をとり、熟慮的なプロセスでは、その選択を採択することも、不利とみなして変容させることもある。しかし、意思決定時間と協力の関係は、参加者の個人的特性によって異なるという研究結果も見られる。Yamagishi et al. (2017) では、意思決定時間と協力の関係は SVO (社会的価値志向性) によって異なり、Pro-social は意思決定時間が短いと協力、長くなるにつれ非協力する傾向にあった。逆に、Pro-self は意思決定時間が短いと非協力、長くなるにつれ協力する傾向にあった。意思決定時間の実験的操作と協力との関係も SVO によって異なる可能性があるが、そのことを検討した論文は少ない。Bilancini et al. (2022) の実験データをもとに分析した結果、意思決定時間の操作の効果は SVO の影響を受けず、MD (動機付け遅延) よりも TP において、参加者の協力率が低かった。そこで本研究では、Bilancini et al. (2022) に、インセンティブがない TP 条件と統制条件を加えた 4 条件を設定し、一回限りの公共財ゲームを行い、①協力行動に対する意思決定時間の操作の効果、②その効果が SVO によって異なるかどうかを検討した。その結果、①条件間で提供額に有意な差は見られなかったが、Bilancini et al. (2022) とは反対に、インセンティブあり TP 条件は MD 条件よりも提供額が大きくなる傾向が見られた。また、②Bilancini et al. (2022) とは異なり、意思決定時間の操作の効果が SVO によって異なることが示された。具体的には、Pro-social においてのみ、インセンティブあり TP 条件の方が、統制条件よりも提供額が大きいことが示された。つまり Pro-social では、インセンティブあり TP 条件が協力行動に対して正の効果を持つが、Pro-self では効果を持たなかった。